

令和6年度 第9号

令和7年1月7日(火)発行

学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成

学校 Web ページ



植竹中だより



目指す生徒像:自ら考え、行動できる生徒「笑顔でおはよう」「笑顔でさようなら」1日を満足させる さいたま市立植竹中学校
〒331-0804 さいたま市北区土呂町352 TEL 048(663)2115 FAX 048(665)6377

新しい挑戦

校長 上 続 昌 司

いよいよ令和7年、新しい年が始まりました。今年の干支は「巳」です。この十二支が生まれたのは、中国の「殷（いん）の時代」と言われています。もともとは日付や時刻、方角などを表すために使われていて、この十二支に動物が割り振られたのは、後になってからのことだそうです。

蛇は古代から再生や永遠の象徴とされ、皮を脱ぎ捨て新たな姿に生まれ変わる姿がその象徴となっています。こうした意味から、巳年は新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年とも解釈されています。新しい挑戦をするための条件として、節目である今がその時ですね。しっかりと目標を立て、よいスタートをきりたいものです。

さて、日本には書初めという文化があります。書初めの由来は、平安時代の宮中行事として行われていた「古書始め」だと言われています。古書始めは、元旦の早朝に初汲みした神聖な水で墨をすり、その年の恵方（縁起のよい方角）に向かい詩歌を書く行事です。長い時を経た江戸時代には寺子屋が普及し、庶民の間でも書初めが一般的な習わしとして広がったとされています。現在では、1年間の目標や抱負を決めて文字で表現し、改めて意識して気を引き締める機会として捉えるようになりました。12月の国語の時間、書初めに取り組んでいる姿を植竹中学校でも見る事ができました。筆の持ち方から気を付け、適量の墨に浸して文字を書いていきます。筆の角度にも気を付けながら、一文字ずつ仕上げていきます。誰一人として喋ることなく、静かな空間が出来上がります。「とめ・はね・はらい」がきれいに整うことで、その文字の美しさが変わってきます。強すぎず、弱すぎず、細心の注意をはらいながら完成した作品には、それぞれの個性が表現されていて見事です。同じ文字を書いているのですが、一つとして同じ作品は存在しないのです。この書初めの文化を利用し、みなさんも明確な目標を考えてみてください。そこで、目標の立て方ですが、年間通じて実行するもの、学期や月ごと、1週間単位や一日の中での目標など、人によって様々な立て方があると思います。ここで大切なのは、目標を立てたまま終わらない事です。継続しないと意味がないですね。自分の性格や習慣等を考えて、続けることができそうな目標設定は重要なポイントになります。短い単位での目標や、難易度の低い設定から始めていけば、継続的に取り組めることが可能性として高くなります。1週間試してみて、修正・改善を行い次の週に繋げていく。この繰り返しができれば確実に力が身に付いてくるはずですよ。中には目に見えて成果が分かるものと、そうでないものが出てくると思います。たとえその時は目に見えて成果が表れなかったとしても、1ヶ月取り組んでみた時、成果として見えてくれば大成功です。何度も何度も挑戦し、振り返り、修正・改善を行い、再び挑戦していく。そんな実りある1年にしたいですね。植竹中生の活躍を期待します。

最後になりますが、地域の皆様、保護者の皆様、3学期も植竹中学校の教育活動に、ご理解ご協力を何卒よろしく願いいたします。